

## 理事長の巻頭報告

### 「台湾スタートアップ企業のレベルの高さ」

12月19日、ISCOの代表チームは台北にできた新しい施設のTTA（台湾テックアリーナ）で、国立交通大学産業加速器センター・特許戦略センター（IAPS）とMOU（包括的連携協定）を締結し（後段の記事を参照）、その第一弾の協力事業としてIAPSが推薦する台湾のスタートアップ企業のピッチコンテストの審査に参加した。MOU調印式とピッチコンテストの会場になった「台湾テックアリーナ」は台北松山空港近くのドーム型の施設だった。

コンテストでは台湾のスタートアップ企業8社が発表した。驚いたのはそのレベルの高さである。台湾政府が資金を投じてスタートアップ企業育成に力を入れて指導しているためか、ビジネスプランは明確で、初期段階から実績を挙げている。

このうち、上位2社は1月25日に那覇市で開催する「OKINAWA STARTUP FESTA」に招待する。招待する2社は、ISPECT 艾思博生物科技股份有限公司（領域：AI計測）とMIFLY 米菲多媒體股份有限公司（領域：AR/VR）に決まった。日本のスタートアップ企業と並んで発表してくれる。会員企業の皆さんはぜひ1月25日のイベントに参加して、自社の新しいサービスに活用できるプランを探してほしい。

ISCOは7月12日、那覇市でのキックオフのフォーラムからスタートした。まだ、半年足らずだが、会員制メンバーには、企業、経済・産業団体、大学、研究機関から多数、加入していただいた。ISCOへの期待の大きさをひしひしと感じる。31年3月までに40企業・団体が目標だったが、11月末ですでに100企業・団体を超えて、さらに増加中である。

事業は、沖縄県からスタートアップ企業育成指導、ビジネスマッチング事業などの委託を受けて出発した。10以上のプロジェクトが進行中である。

さらに、当初計画になかった、会員企業からの先端技術利用の実証実験の支援事業をはじめ、複数の委託を受け、事業内容は拡充している。

また、会員サービスとして沖縄県庁駅前のビル内にオープンしたシェアオフィスと提携し、ここを事業マッチングや会員間のコラボスペース、会員企業社員の遠隔仕事場として利用する準備も進んでいる。12月から利用を開始しているが、先方のシェアオフィス運用会社と細かい利用条件が固まらないので、本格的な利用は新年になってからになりそうだ。先方との条件調整の中で「2口以上の会員」が利用の条件になるかもしれない。

そして今後は海外の研究機関などとのMOU締結である。今回のMOU締結に続いて、年初にもいくつか予定がある。

新年以降のISCOの活動にも期待していただきたい。また、ISCOはいろいろできるので、会員企業の皆さんからの依頼、相談もお待ちしています。

では、よいお年を。